HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	はしがき
Author(s)	常本, 照樹
Citation	北海道アイヌ民族生活実態調査報告 : Ainu Report, その2 現代アイヌの生活の歩みと意識の変容 : 2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書. 小山透編著
Issue Date	2012-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/48985
Type	bulletin (other)
File Information	AINUrep02_001.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

はしがき

北海道大学アイヌ・先住民研究センターは、2007年の開設以来、様々な研究プロジェクトを立ち上げ、アイヌ民族との協同を基本方針として事業を推進している。

その一つとして、センター兼務教員である小内透教授（教育学研究院）を中心とする社会調査プロジェクトが、2008年と2009年にアイヌ民族の方々を対象とした生活実態調査を実施した。2008年の調査は、できる限り多くの方を対象に、教育・就労・生活・意識などの幅広い側面から、社会学的にアイヌ民族の生活状況・意識を明らかにすることを目的とした。

その結果は、『2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告　現代アイヌの生活と意識』（2010年３月）として当センターにより公表され、英語版も作成されている。報告書は日本語版、英語版とも当センターのホームページから入手することができるようになっている。

2009年には、2008年の量的な調査の結果をふまえ、アイヌ民族の生活状況や意識をより深く把握することを目的として、インタビュー法による質的な調査が実施された。調査にあたって、アイヌ民族が数多く居住する札幌市とむかわ町の２つの地域を選定し、そこに住むアイヌ民族の方々にお話を聞かせて頂いた。インタビュー調査は、生まれてからこれまでの生活の歩み、アイヌ文化との関わり、アイヌ民族としての意識、国のアイヌ政策に対する要望などの聞き取りを中心にして行われた。その結果をまとめたのが、本報告書である。

インタビュー調査にあたっては、100名をこえるアイヌ民族の方々に協力して頂いた。インタビューには、貴重なお話をうかがうのに、通常１時間から２時間がかかった。それ以上の時間を費やし、調査に協力して頂いた方たちもいた。なお、今回も、前回の2008年調査に引き続き、北海道アイヌ協会事務局の全面的な支援をえられた。調査対象者との連絡、日程調整を始めとして、多くの事柄に対応して頂いた。また、調査の際には、執筆者以外にインタビュアーとして、櫻井義秀（文学研究科教授）、山崎幸治（アイヌ・先住民研究センター准教授）、中村康利（北海道新聞栗山支局）、新井かおり（立教大学博士課程）、岩佐奈々子（教育学院博士課程）、川上将史（財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構主事）の諸氏の他、教育学院・教育学部、文学部の院生・学生の協力をえた。関係者の皆様に、この場を借りて厚くお礼を申し上げる。

2010年に設置されたアイヌ政策推進会議により、アイヌ政策の具体化が図られつつある。2012年度の国の予算には、「民族共生の象徴となる空間（イオル）」の建設に向けた事業も盛り込まれることになった。これらの動向の下で、アイヌ民族の現状や課題を把握することがますます重要な意義をもつことになる。本報告書がアイヌ民族の社会的地位の向上と民族文化の保存・伝承及び発展に少しでも貢献できれば、幸いである。

北海道大学アイヌ・先住民研究センター長

常本照樹